

道元と懐奘

師はいかに弟子を育てたか

永平寺を開いた曹洞宗開祖・道元。その教えを分かりやすく書き記した『正法眼蔵随聞記』は現在でも広く読まれている。その文面から窺えるのは、弟子に仏法を伝授しようとする道元と、真つ直ぐな心でその教えを受け止めようとする弟子・孤雲懐奘の姿である。仏教史上稀にみる深い絆を持った師弟と言われる二人の生き方を通して見え

てくる世界を、作家の立松和平氏、駒澤大学教授の角田泰隆氏にお話しいただく。

——仏教史上稀に見る深い師弟関係の絆

角田 立松先生には過去に何回かお会いしておりまして、八年前でしたか、私が住職を務めます長野県伊那市の常圓寺にお越しいただき、ご講演を聴いたことがありません。集まった皆さんに大好評で……

立松 お寺に行って仏教のお話をするなんておこがましいとも思いましたが、一所懸命に話したつもりでした。喜んでいただけると聞いてホッとしました。

僕も角田さんには何かとお世話になっていきます。道元禪師を題材とした『道元の月』という歌舞伎の台本を作った時には、たくさんアドバイスをいただきました。

角田 『道元の月』は本当にいい歌舞伎でした。私も何度も鑑賞しました。

立松 そうですか、何回も見てく



角田泰隆 駒澤大学教授

立松和平 作家

たてまつわへい——昭和22年栃木県生まれ、55年『道祖』で第28回野間文学賞新人賞を受賞。その後、『禪洗』で第8回坪田謙治文学賞、『海一風因、田中正造』で第51回毎日出版文化賞を受賞。歌舞伎上演台本『道元の月』で第31回大谷竹次郎賞を受賞。国内外を問わず各地を旺盛に旅する行動派作家として知られる。仏教にも造詣が深く『道元禪師』(東京書籍)『道元という生き方』(春秋社)『禪道に生きる』(淡交社)など多くの著書がある。

つのだたいりゅう——昭和32年長野県伊那市生まれ。駒澤大学大学修了。大本山永平寺安居。曹洞宗宗学研究所所員、後に主任を務め駒澤短期大学仏教科講師、同助教、同教授を経て現在駒澤大学仏教学部禅学科教授。伊那市常圓寺住職。著書に『道元入門』(大藏出版)『禪のすずめ—道元のことば』、『ZEN道元の生き方』(ともに日本放送出版協会)など。

ださったのですかね。しかし、歌舞伎という形で情が愛する道元禪師を描くのはなかなか難しいものだと思います。もちろん、それが

僕らの仕事なのでしょうけれど、ものではありません。立松、そのとおりですね。角田、ところが、道元禪師の弟子

に難解で、とても太刀打ちできない